



## 「水戸統括センターの新設について」詳細提案を受ける！その②

### 6. 議論内容

組合: 今施策の目的を明らかにすること。

会社: 系統を超えて新たな価値の創造を一層推進していく観点から、社員一人ひとりの成長意欲に応え、活躍フィールドを拡大させ、これまでの役割分担に捉われない柔軟な働き方を実現していくためである。

組合: 水戸営業統括センターでの成果や課題を明らかにすること。

会社: 他駅勤務や輸送と営業等の業務の融合が実現した。また、イベント対応等、企画業務等に携わり、柔軟な働き方が実現した。更に深度化させるため、統括センターを新設する。

組合: 現在実施している水戸運輸区と水戸営業統括センターの業務の融合について示すこと。

会社: 水戸運輸区の管理者2名が水戸営業統括センターの副長業務を担っている。一般社員について、乗務員1名は輸送業務、乗務員5名は出札や改札業務の各作業ダイヤに従事している。

組合: 水戸統括センター発足後に実施予定の業務の融合について示すこと。

会社: 駅の副長が運輸区の副長業務に従事することや、一般社員は特別改札や輸送計画業務等が行えろと考える。事務業務は企画グループに集約する考えである。

組合: 土浦エリアと勝田エリアの統括センター化について、現段階の考えを示すこと。

会社: 検討中である。水戸統括センター発足後の推移を見ることや各施策も勘案し、決まり次第、示す考えである。

組合: 箇所体制について、各駅の作業ダイヤや出面数に変更はあるのか。

会社: 変更はない。

組合: 統括センター新設にあたり、企画グループと業務グループ及び3つのユニットを設置する理由を明らかにすること。

会社: 企画グループを設置することで、イベントの計画や清掃作業行程等の連携を取ることが出来た。また、3つのユニットについては営業統括センターに根付いていることや、社員より使命感があるとの意見があり、統括センター発足後も踏襲する考えである。

組合: ユニット制に全社員がいずれかに所属する理由や所属するユニットの決定時期を示すこと。

会社: 営業統括センター発足時にも同様に行った。社員に役割意識や使命感を持つことができた。各営業統括センターやいわき・原ノ町統括センター等、これまでの実績を踏まえ行う考えである。所属するユニットの決定時期は統括センター発足までに箇所長が判断する。

組合: いわき統括センター・原ノ町統括センター発足の際に行われたユニット制の配属先の実績を示すこと。

会社: 2023年12月段階で企画総務ユニットの割合を1とすれば、地域共創ユニットは1.5、鉄道事業ユニットは2である。

組合: 組織再編に伴い、支社から水戸営業統括センターに移管している業務内容と今後水戸統括センター発足後に移管する業務内容を示すこと。

会社: 「はこビュン」「ステーションブース」「酒列車のイベント」等である。また、ホームの乗車位置シールは発注から貼り付けまで全て営業統括センターで行っている。水戸統括センター発足に伴い、新たに移管する業務はないが、今後現場に移管する必要があるれば行う考えである。

## JR東労組水戸地本は組合員の意見をもとに、団体交渉に施策に臨みます！